

第2回佐賀駅前広場等整備・活用検討会議

■日 時：令和3年1月21日（木）14：00～16：00

■場 所：佐賀市役所2階 庁議室

■参加者：（委員）荒牧軍治、香月道生、西村浩、有馬隆文、牛島英人、江口英樹、木下博幸、柴戸晶子、富吉賢太郎、保田俊、馬場久雄、福成有美、前川直、江副太、川崎博満、江頭省吾、植松洋人、白井誠、福島龍三郎（欠）

（オブザーバー）川口孝司（県道路課長）、王丸義明（県佐賀土木事務所長）

（事務局：佐賀駅周辺整備構想推進室）

武藤英海、池田剛、西洋徳、園田卓司、田中克弥、井手康祐

大串賢一、梅崎昭洋、姉川久、村上正、坂井元、星下努、武久巧

江口弘行、嘉村浩二

（事務局：佐賀県都市計画課）楠英人、垣内尚子、中橋勝也

1. 開会

2. 挨拶

3. 委員紹介

4. 前回会議振り返り及び進捗状況報告（市説明）

5. 検討事項1【佐賀駅前広場整備・活用】

- ・南口広場（大屋根等）の検討状況について（市説明）
- ・活用しやすい駅前広場について（イベント事業者プレゼン）

○ 委員

- ・広場等でイベントをやってない日常時の空間演出等で参考になるような事例があれば教えて欲しい。

➡使いやすくすればするほど、フラットで殺風景になるという面はある。

日常は通行の場であり、あまり施設として造り込み過ぎない方が良い。【イベント事業者】

➡大分駅やキャナルシティ博多等は、広場の地面から水が噴き出す仕掛けがある。フラットな広場で、夏場は噴水的に使うというような事も考えられる。【イベント事業者】

➡佐賀市の冬の風物詩としてライトファンタジーがあるので、イルミネーションなどで活用することを考えてはどうか。【イベント事業者】

○ 委員

- ・屋根を大きくするのは良い。圧迫感を出さないための高さや、使い勝手を考えた柱の位置などを考える必要がある。佐賀駅のサインが見えなくなるので大屋根に表示してはどうか。

➡大屋根にかけられるコストは決まっているので、デザインと使い勝手とコストを考慮してもっともバランスの取れた形を目指して議論していきたい。【市】

○ 委員

- ・大屋根の規模感と整備のスケジュールの予定は。
➡規模は予算との兼ね合いになるが、三角の一边25～30メートル程度を考えている。今年度は大屋根の規模感を決め、4月から高さやデザインなどの具体的な設計に入っていく予定。【市】

○ 委員

- ・大屋根は日常快適に利用できる駅の風景として広い通路用屋根のイメージで良いのではないかと。イベントステージとしての利用はプラスアルファの機能で良いと思う。
- ・広場に季節を感じるものは欲しい。

6. 検討事項2【県道佐賀停車場線在り方検討】

- ・県道佐賀停車場線の検討状況について【県】
- ・社会実験の実施について【市】

○ 委員

- ・県道東側拡幅の案はとても良いが、提案の歩道配置位置（店舗側）は沿道事業者がせっかく拡張した空間を活用しづらいため、再考の方が良い。地上機の民地内移設の働きかけも含めて幅員構成を考えて欲しい。

○ 委員

- ・東側歩道拡幅案は楠を活かす観点から出た話だと記憶している。楠の位置はどこか。
➡図でいうと南進車道の中心辺りになる。楠を残すかどうかや幅員構成も含め決まっているわけではなく、今後の課題として認識したい。【県】

○ 委員

- ・再整備後に自転車通行レーンは設けないのか。自転車交通量も多く分離の必要性があるのでは。
➡自転車通行レーンは現在予定しておらず、停車帯を通行させる等できれば避けたいと考えている。自転車がバンバン通る空間にはしたくない。今後、通行状況を把握し検討していく。【県】

○ 委員

- ・県道整備のスケジュールはどのように考えているか。
➡拡幅案が決まればその形での詳細設計等を行っていく。都市計画道路であり、計画変更には1年は掛かるので、その間に社会実験を実施することは可能。【県】

○ 委員

- ・今後駅北もアリーナができ、北口からアリーナに掛けても賑わいづくりの仕掛けが必要となってくると思うが、住み分けについてどう考えているか。
➡駅周辺を利用する多くの通行量があるにも関わらず、全くお金が落ちていない現状に問題があり、北と南の住み分けと言うより、北南に関わらず今回の整備を現状を変え

るきっかけにしなければいけないと考えている。【市】

○ 委員

- ・社会実験は3月に行う必要があるか。3月末に北口広場工事が終わった後で、タクシープールも活用し、整備後の形に近づけた形で実施した方が良いのではないか。

○ 委員

- ・社会実験の出店者は、駅前に進出の意図のある人を募って行った方が良い。現在の歩道を活用して行う場合は、点字ブロックに支障しないように実施することは難しいのではないか。
- ・キッチンカーの業者が営業として来ても意味がないので、県道整備は沿線不動産活用促進のためのハード整備、社会実験は駅周辺の空間活用のプロモーションとして、市と県が連携して取り組むべき。
 - ➡整備予定の道路形状に沿った形での社会実験については、今後計画をしていくが、今回市が行うイベントと座談会は市民周知と整備の方向性確認の意味で実施したい。【市】

7. 意見交換

8. 今後のスケジュール